

## —八戸市—

## 国際大会基準の屋内スケート場を整備

## 1. はじめに

八戸市をはじめとする青森県南地域は、スケートが盛んで、明治時代から続く長い歴史と、国内最多の冬季スケート国体開催を誇る。

これまでは、八戸市の中心部に位置する長根公園の屋外リンクが主会場となり、当市のスケート文化を支えて来たが、老朽化が著しく、県に対し、県立の屋内スケート場の整備を要望してきた。

その後、建設費は国、県が負担し、運営は市が行うという協議に双方が合意し、平成26年度から設計を開始、平成28年度から工事に着手した。

## 2. スケートリンクとしての工事概要

当該屋内スケート場は、中心市街地に隣接するという好立地条件に恵まれ、建設により、施設と中心市街地が連携した施策の展開が期待できる計画でスタートした。

屋内スケート場の顔となる主出入口は、中心市街地に向け、開放的なホワイエを設けるとともに、既存の樹木や風景を極力保全するなど景観への配慮が為されている。また、公園内の高低差への対応として、3方向からのトレイルデッキを設け、利用者へ配慮した設計となっている。

内部には、約3,000席のスタンドを設け、大会を盛り上げるため馬蹄形とし、中央に3面の大型映像装置を設置するなど、客席と競技場が一体となって楽しめる配置としている。

中地には、人工芝の面と体育フロアの面を設けて、上部から降下する防球ネットにより通年でフットサルやバスケットボールなどが楽しめる。天井鉄骨組は、数多くの「ベント」と呼ばれる仮設支柱に鉄骨を乗せ、全鉄骨組の配置が完了した時点でベントを一斉降下させる工法で施工した。

鉄骨組完了後、遮熱効果の高いアルミ膜で天井部を覆い、屋根からの輻射熱を遮断し、効率的な空調が行えるよう工夫されている。

スケートリンク面のコンクリート工事では、国際大会開催基準に合致するように、ミリ単位の誤差調整を図るべく、バイブレーターを活用した工法を取り入れ、リンク面の平坦化に努めた。

この他、消費電力が少ないLED照明や、高品位

なりリンク製氷が可能な冷凍システムの導入など、維持管理費の低減を図りながら、世界最高水準の競技環境を目指して施工された。

## 3. 防災拠点としての整備概要

当市は、平成23年3月の東日本大震災時の津波により甚大な被害を受けた。震災対応の際には長根公園が拠点となり県内外の被災地に支援物資を供給したという経緯があった。

これを踏まえ、屋内スケート場を「地域防災拠点施設」に位置づけ、災害時に数千人の一時的避難施設として活用するほか、大規模災害時の支援物資集積所及び災害応急復旧活動拠点としての機能を担う施設となることから、災害に備え、水や食料等を備蓄する防災用倉庫としてのスペースを確保している。



建設中のYSアリーナ八戸（撮影：令和元年5月）



アリーナ内部（撮影：令和元年7月）

## 4. おわりに

9月29日の供用開始にあたり、屋内スケート場の建設に携わった多くの方々の御尽力により事業が進展し、順調に工事も進められて来た。改めて、関係各位に感謝と敬意を表します。

これからは、多くの国際大会の開催や、スポーツを中心とした交流拠点と、多目的に利用できる「みんなのスケート場」の特性を生かした運営に努めていきます。

(八戸市 まちづくり文化スポーツ部  
長根屋内スケート場副館長 河原木 実)